

【翻刻】

はしか落し  
ばなし

ゝこのたびはしかはやるについて  
しやうばいのひまな人あつまりて  
よせゝときにこんどの一けんについて  
きやくはひとりもこず  
くわずにはゐられずじつに  
こまるぜ げいしやゝそうさわたし  
だつておなじことさ  
てんぶらやゝおれなんざアくつたり  
くわなんたりだ ひやつこいゝおれ  
のほうはくわなんたりくわ  
なんたりよ ふなやとゝおれも  
おなじことだゝりやうりや  
さかなやゆやとうふや  
かみゆひなど大ぜいにて  
ゝなんでもうらみははしかのかみ  
めだ げいしやゝさやうさ  
くいついでやりたいやうだ  
ゝそうよぶちころして  
やるうじやねへかとみなく  
でかけるトいしやさまが  
かけきたり ゝまアく  
まちねへ みなくゝゝなぜ  
ゝあんまりそれじやアたん  
ぺいきうた みなく  
ゝなぜく  
いしやゝはてさともかくも  
はしかの事に  
しねへ

【校定】

麻疹落しばなし

この度、麻疹流行るについて、商売の暇な人集まりて、寄席「時に今度の一件について、客は一人も来ず。食わずにはゐられず、実に困るぜ。」

芸者「そうさ。私だつておなじことさ。」

天ぶら屋「おれなんざア、食つたり、食わなんたりだ。」

冷っかい「おれの方は食わなんたり、食わなんたりよ。」

船宿「おれも同じ事だ。」

料理屋、魚屋、湯屋、豆腐屋、髪結ひなど大勢にて、「なんでも恨みは麻疹の神めだ。」

芸者「さやうさ。食いついてやりたいやうだ。」

「そうよ。ぶち殺してやろうじやねへか。」とみなく出かけるト、医者様がかけ来たり、

「まアく、待ちねへ。」

みなく「なぜ。」

「あんまりそれじやア短兵急た。」

みなく「なぜく。」

医者「はてさ、ともかくも、はしかの事にしねへ。」